

保育・幼児教育の質を高める 園庭づくり 園庭の充実と地域資源活用のおすすめ



秋田 喜代美
(東京大学大学院教育学研究科)
@森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク
設立記念シンポジウム

* 本発表は、東京大学大学院教育学研究科
附属発達保育実践政策学センター(Cedep)の
プロジェクトとして、以下4名との共同研究で実施
され、スライドも共同作成されたものです。

辻谷真知子、宮田まり子、石田佳織、宮本雄太

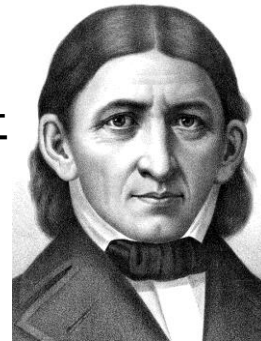
* 本研究発表資料は、Cedepの園庭研究メン
バーがすでに学会発表や論文等で発表した内容
及びスライドを転用した部分が含まれています。
その発表時に使用写真は園より許可を頂戴して
いるものとなります。内容の詳細はCedepで近日
中に作成されます園庭チーム
のサイトをご覧ください。



幼稚園創造の父 フレーベルの言葉

「自然をよく知り、それと融合することは一面から見ると、個々人ならびに全人類の実りの多いかつ祝福に満ちた教育および陶冶の確たる基礎なのである・・・幼稚園の思想は、必然的に一つの庭を要求し、さらにそのこの庭の中に子どもたちのためのもろもろの庭を要求する。」

フレーベル全集4「幼稚園における子どもたちの庭」より



1 私たちの調査 現在日本の園庭は？

屋外で子どもが安心して活動できる環境や時間の減少



それらを保障するものとしての、保育・幼児教育施設における「園庭」や拡張された園庭としての地域資源の役割の高まり

- ✓各施設の豊かな実践
- ✓都市部等では面積が十分に確保できない現状
- ✓国内全体の傾向や実態については不明な点も多い



➤国内の保育・幼児教育施設における園庭について

- ・実態(どのような環境があるのか、ないのか)
- ・実践(どのような工夫や取り組みがなされているのか)

を明らかにし、子どもの育ちに今後必要とされることを

子どもの視点、保育者の知恵を含めて、考える。⁴

全国1448園に協力いただいた園庭写真の一部です



地域の自然のさまざまがわかります



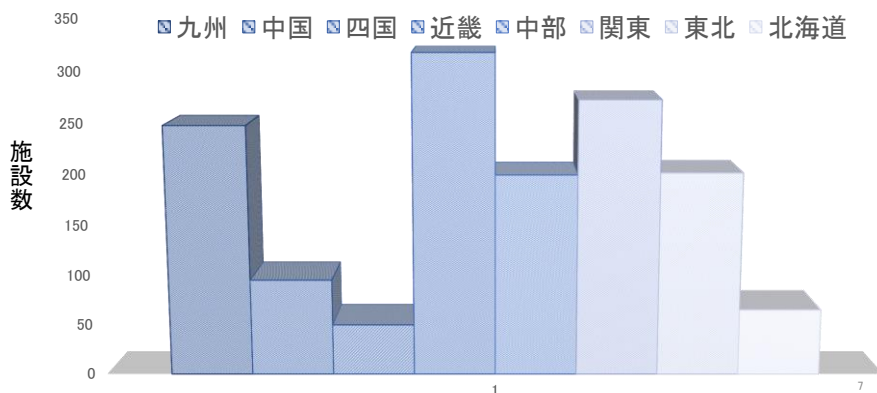
Ⅱ 方法: 質問紙調査の概要

ご協力いただいた方



1. 全国の保育・幼児教育施設

2,922施設配布・1,448施設(49.6%) (うち認定こども園は1343施設)



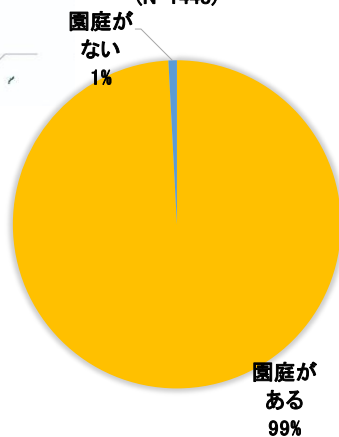
Ⅱ 方法: 質問紙調査の概要

園庭がある園の回答が主

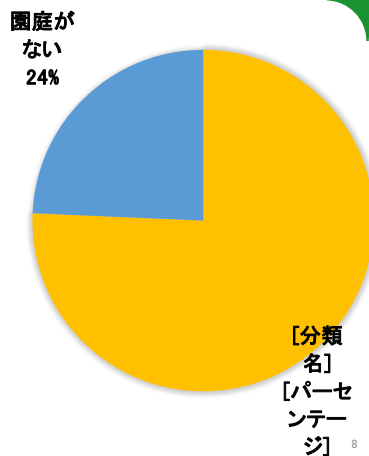
ご協力いただいた園の園庭の有無



1. 全国の保育・幼児教育施設 (N=1448)

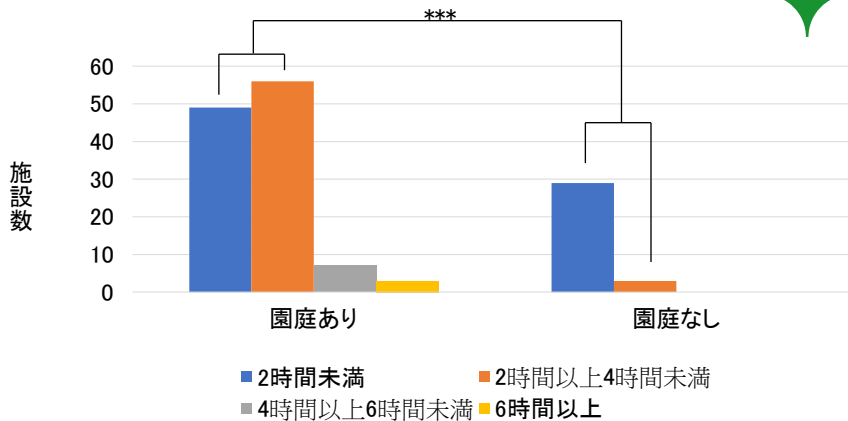


2. 東京都(N=292)



子どもが屋外で過ごす時間（東京都）

園庭がある方が屋外環境で過ごす時間は長い(2号認定児)。
全国でも同様の傾向。戸外経験には園庭が必要

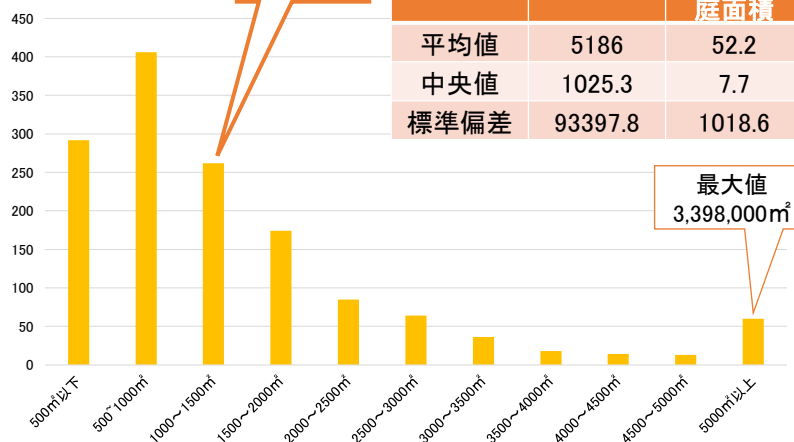


2号認定児が園庭または屋外環境で過ごす時間（東京都）

9

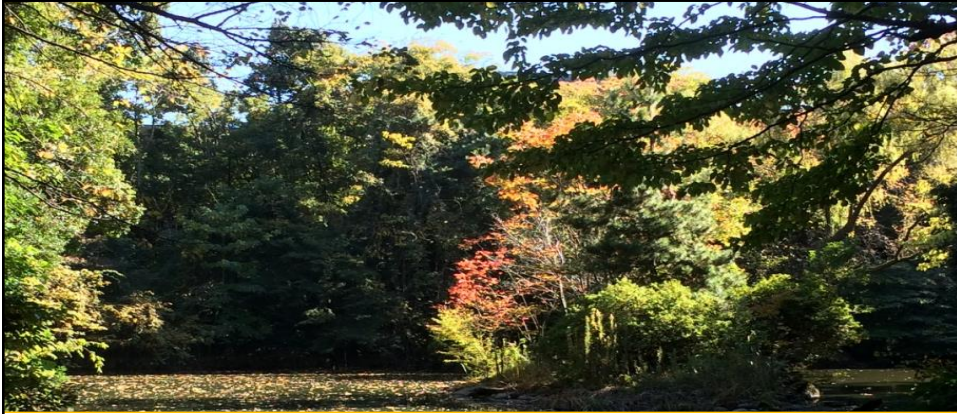
Ⅱ 方法：質問紙調査の概要（園庭面積）

・園庭面積の分布



	園庭面積	園児一人あたりの園庭面積
平均値	5186	52.2
中央値	1025.3	7.7
標準偏差	93397.8	1018.6

10



1 物理的環境の多様性と 「拡張された園庭」としての地域資源



物理的環境の多様性に目を向ける

園庭や、園庭のない施設が用いる近隣環境において、何があり、何がないのか？

➤ 個別の物理的環境について尋ねた14項目



園庭の有無と違い

物理的環境

園庭あり

園庭なし

砂遊び場、固定遊具、可動式水遊び場、樹木、静かな場所

多い

水道や井戸、花壇やプランター、土遊び場、菜園、道具や素材、摘んでも良い草花

築山や斜面、芝生、生き物が生息する水場、子どもが水遊びをする場、水路や池

少ない

子どもが水遊びをする場、生き物が生息する水場
木登りのできる木や樹木を活用した遊び場

「園庭あり」では菜園や「摘むことができる」など環境との能動的な関わりができる環境が多い。一方、「園庭なし」では水に関する環境との関わりは多く得られている可能性がある。

豊かさを捉える指標としての

物理的環境の多様性:幼稚園施設整備指針

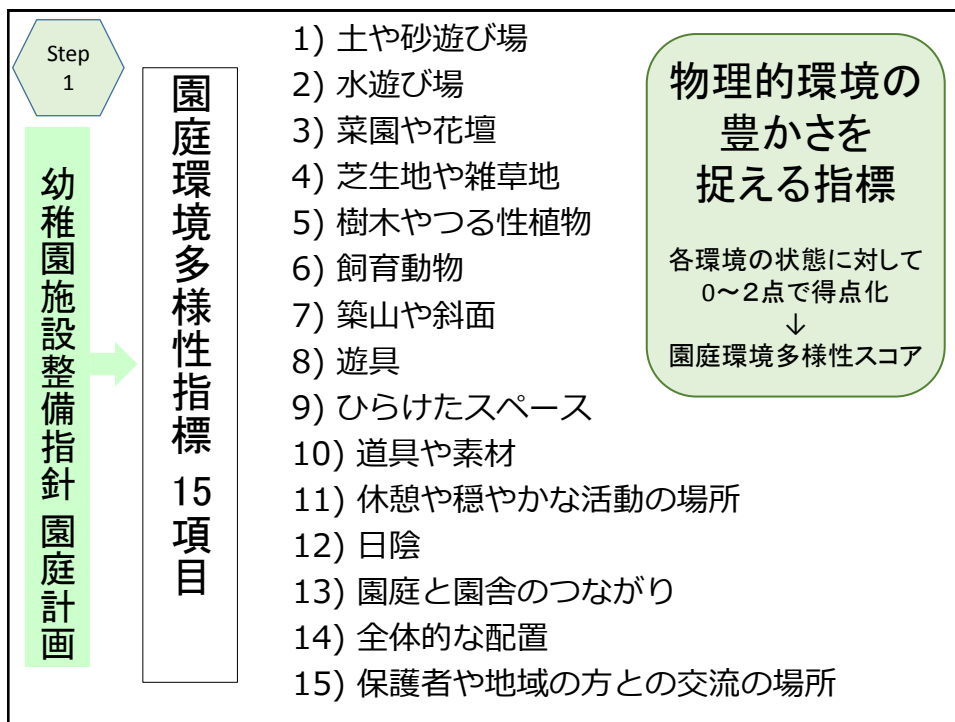
個別の物理的環境について尋ねた14項目について、質に応じて0/1/2、もしくは0/2で計算した。※今回は開発途中であり、豊かさを捉える目安として検討中。

(例)

物理的環境	状況	計算
砂遊び場	砂遊び場として特定の場所が設けてある	2
	特定の場所はないが、園庭の砂を自由に取ることができる	1
	ない	0
芝生地	ある	2
	ない	0

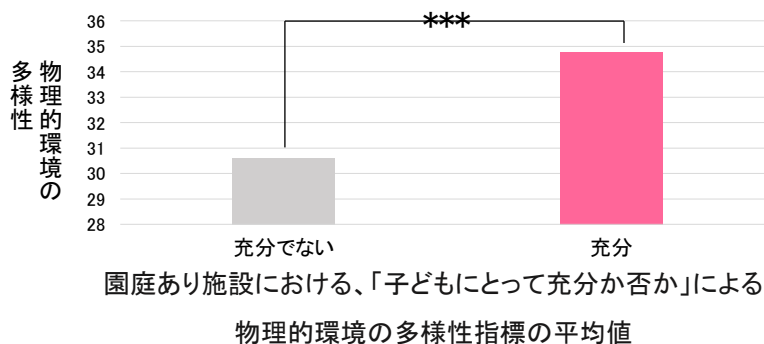
	N	満点	最小値	最大値	平均値	標準偏差
園庭あり	1658	58	9	54	32.6	8.5
園庭なし	83	48	7	42	23.8	8.8

14



園庭・屋外環境が「子どもにとって充分か」 (満足度)と多様性指標

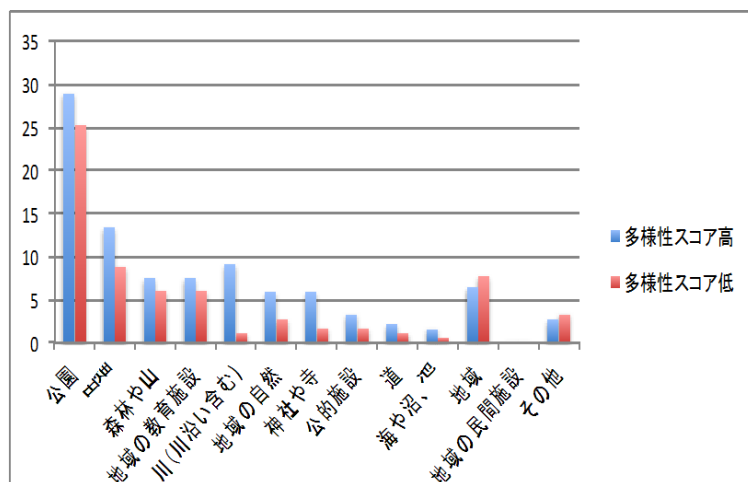
「充分」と捉える施設は、「充分でない」と捉える施設よりも物理的環境が多様である。ただし、
園庭面積や、子ども1人あたりの園庭面積については差がない。



※園庭なし施設の屋外環境についても、同様の傾向がみられた。 16

多様性と地域資源利用

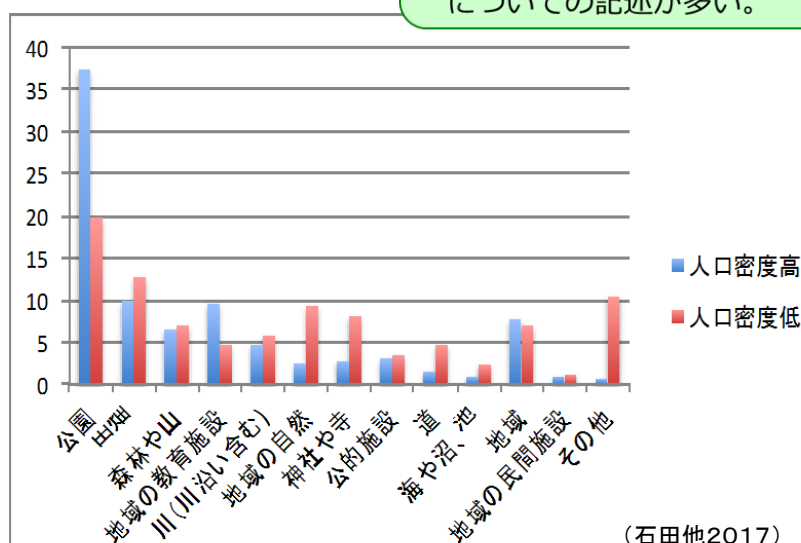
- ・園庭の多様性が高い方が様々な場所がくまなく記述されている。
- ・多様性が低い方が、公園利用の割合が高い。



(石田他2017)

人工密度と地域資源

- ・人口密度が低い方が様々な場所が記述されている。
- ・人口密度が高い地域では公園についての記述が多い。



(石田他2017)

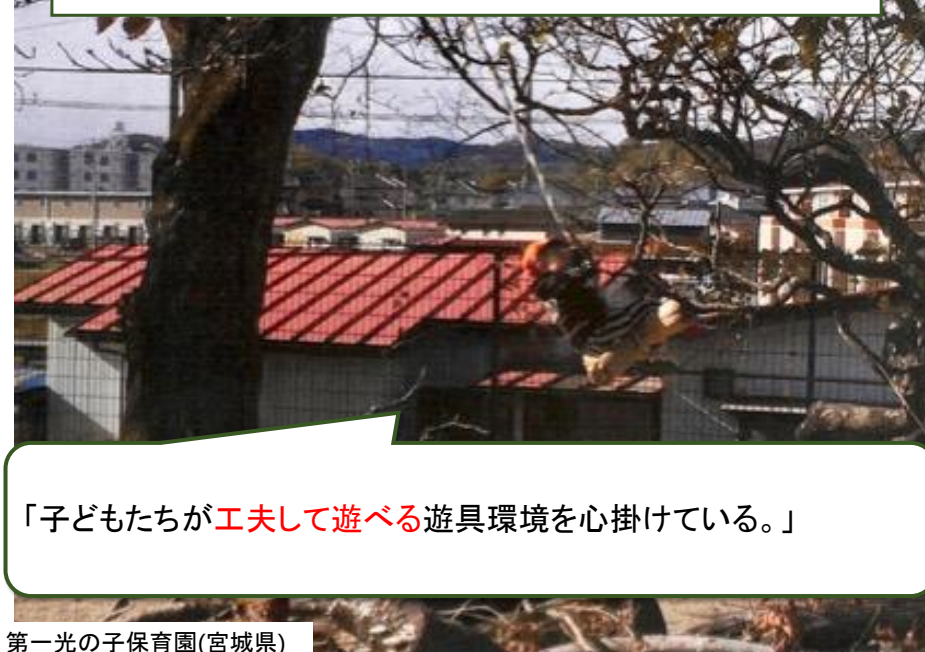
物理的環境の多様性が高い園庭A



「園庭を一望できる山、手作り遊具(ブランコetc)、車掌車(旧国鉄時代の物)。」

第一光の子保育園(宮城県)

物理的環境の多様性が高い園庭A



「子どもたちが工夫して遊べる遊具環境を心掛けている。」

第一光の子保育園(宮城県)

物理的環境の多様性が高い園庭A



「できる限り禁止事項をなくす様にしている。」

第一光の子保育園(宮城県)

物理的環境の多様性が高い園庭 B



日向なないろ保育園(宮崎県)

物理的環境の多様性が高い園庭 B



日向なないろ保育園(宮崎県)

物理的環境の多様性が高い園庭 B



日向なないろ保育園(宮崎県)

「園の情報をオープンにしている。**情報発信をたくさん**することで、地域、保護者の理解を得られる。**Line**は**保護者と園職員間のグループ**を作っており、毎日の活動を都度共有している。職員間の**情報共有**にも**利用**している。」

園庭がない施設の工夫



石田他(2017)

園庭がない施設の工夫

地域活用

場所	記述した施設数
近隣公園	37
散歩	11
近隣の園庭がある施設と連携し 園庭利用	6
遠方の公園 (歩く力・大きな公園)	3
神社	2
川の土手、池	2
地域のいろいろな場所	2
森	
地域のパブリックスペース (商業施設、オフィスビル)	

場所	記述した施設数
広場	1
近隣中学校の校庭	1
スポーツセンター(水遊び)	1
駅ビル屋上のプール	1
市民農園	1
JAの花壇	1
車が通る道路	

地域の**多様な場所**が
活用されている

* **83施設中、50施設**が「地域活用」について記述。

* 13施設は「天気が良ければ」「できるだけ」など**積極的に戸外へ**出かける旨を記述。

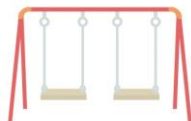
園庭がない施設の工夫

地域活用

公園利用時など、他園と重なった際の工夫

一緒に使う	譲り合って利用
	時間をずらす
	室内で体を十分動かしてから出かける
	自園以外の子どもと遊べるよう工夫
	探索遊びなど、遊びの工夫
別の場所に移動	他園と共有の相談
	別の公園へ移動
	車が通らない路

・遊び方の工夫
 ・他園との連携に
 よって地域活用
 が深まる可能性



2 子どもたちの声を聴く





宮本他(2016)

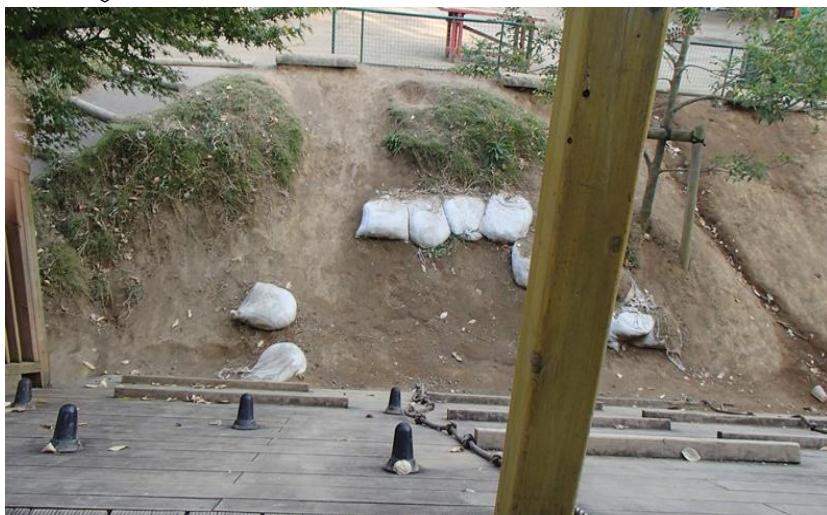


見つからないから。くるかわからない場所。
おにごっこかしてるときに隠れる場所。



倉庫の裏

坂は鬼が来ないから



園庭の坂

駐車場にぴったりだから



園庭の坂の下

あおむしとかがいてきれいだったから



園庭

ひばり組(年少)のときからずーと練習してたから



鉄 棒

戦えるから



ネット

柔らかいから。アミアミが好きだから



ネット

友だちがいるから



ネット

- a) 隠れて遊べる場
- b) 過去の経験と関係がある場
- c) 多様性、選択可能性がある場
- d) 他児から影響がもたらされる場
- e) 幼児なりのルールや決まりが生まれる場
- f) 挑戦ができる場
- g) 待ち合わせができる場
- h) 願いや望みが生まれる場
- i) 常にある場
- j) めまい(回転の揺れや落下のスピード感など)を感じる場
- k) 高低差がある場

宮本他(1016, 2017)

子どもの声と保育者の意識のずれ リーフレットStep2

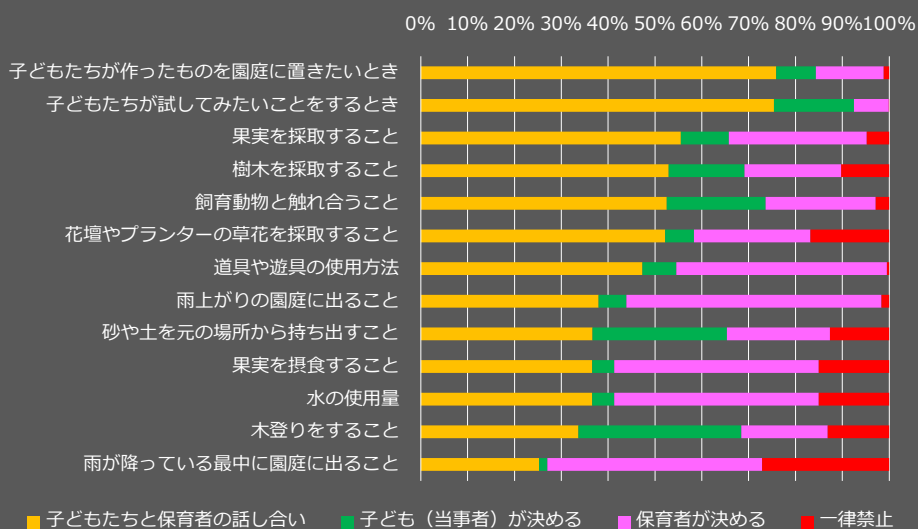
- 1 隠れて遊べる場所：子どもの姿と
保育者が意識する遊び場所のズレ
- 2 配置される遊び場所の機能
敷地の地形を生かした場所、
回遊性がある場所
- 3 保育者の子どもの姿の見とり
子どもの遊びに向かう姿・動きから



3 ルールとリスク



園庭での遊びや活動を広げるために、
使い方やルールをどのように見直すことができるでしょうか？



辻谷他2017



どのように感じますか?

Anita Niehues

Anita Niehues[2018]より許可を得て使用



危ない遊びに関しては、国際的にも議論が盛んにされている

Anita Niehues[2018]より許可を得て使用

幼稚園施設整備指針「2 多様な自然体験や生活体験が可能となる環境」

- 「(1)幼児の身体的発達を促すため、自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶなど幼児の興味や関心が戸外にも向くよう、幼児の導線に配慮した園庭や遊具の配置を工夫することが重要である」
- 「(2)豊かな感性を育てる環境として、**自然の中にある音、形、色などに気づき**、自然に触れることのできる空間を充実させることが重要である。その際、自然の地形などを有効に活用した屋外環境及び半屋外空間を充実させることも有効である」、
- 「(3)**幼児の主体性を引き出しながら、遊びを通して危険を回避する力を身につけることができる環境づくり**が重要である」
- 2018. 3月 赤字が今回新たに加筆された部分

高さ

登る ぶら
下がる、よじ
登る、飛ぶ

速さ

こぐ、滑る、走
る、揺らす、

危ない道具、
切る、縛る

無茶苦茶

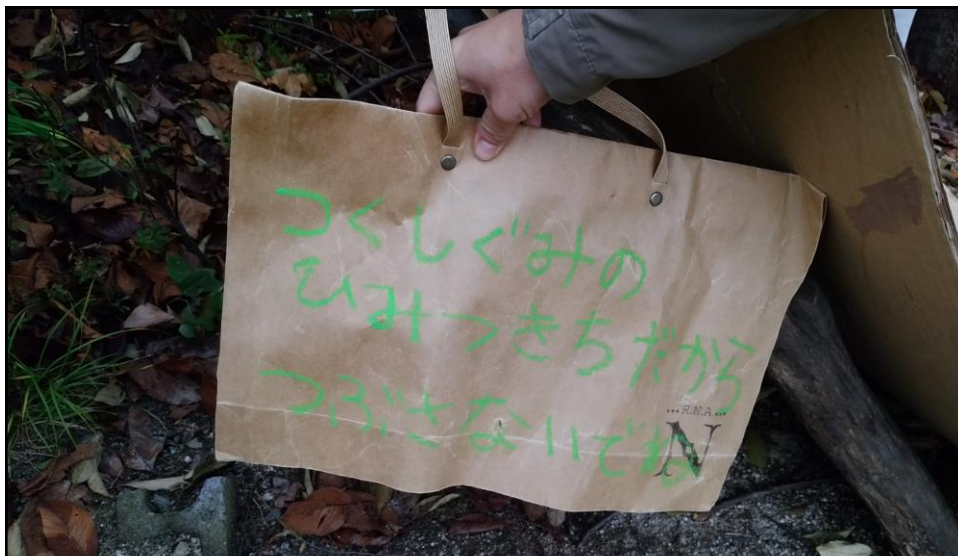
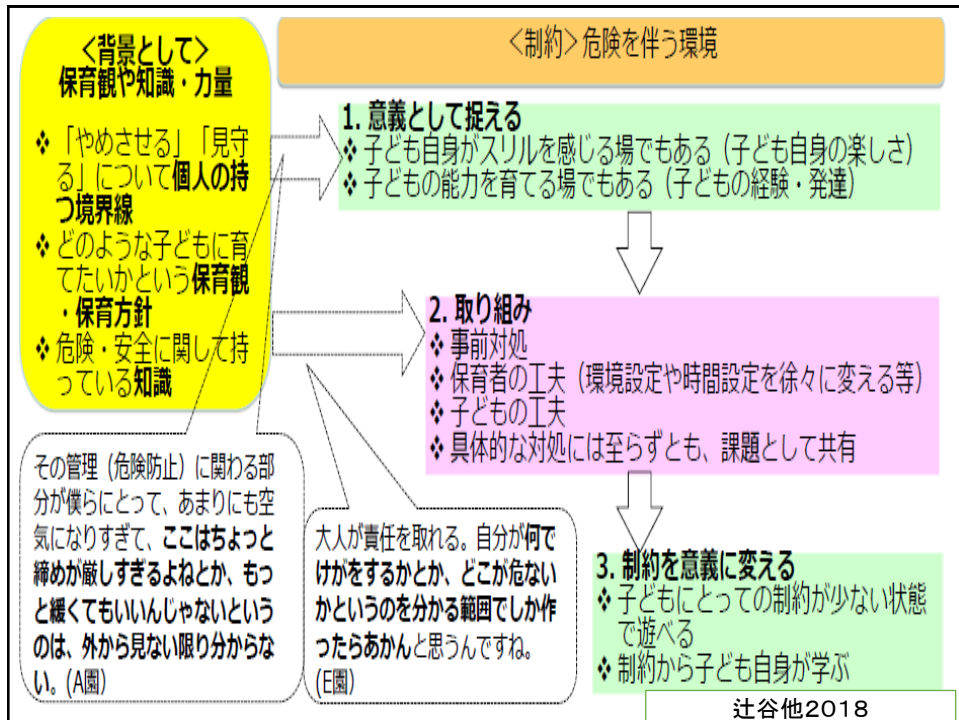
取っ組み合い、
チャンバラ

ふらつく

探検、隠
れる

さまざまなリスクを予知してのリスクマネジメントと
園のナレッジマネジメント

(Sandeseter, 2009より)



4 園内・保護者・地域での情報共有





◆ 子どもも大人も、園庭環境に関わる個人の感覚(怖さ等)を尊重することで、安全を組織的に管理することは少ない。
→子どもも大人も自ら判断して関わる、主体的な取り組みを促進する



保護者や地域の方々と

保護者の不安を**期待に**変える

保護者や地域の方々と

少人数から**少しずつ**...

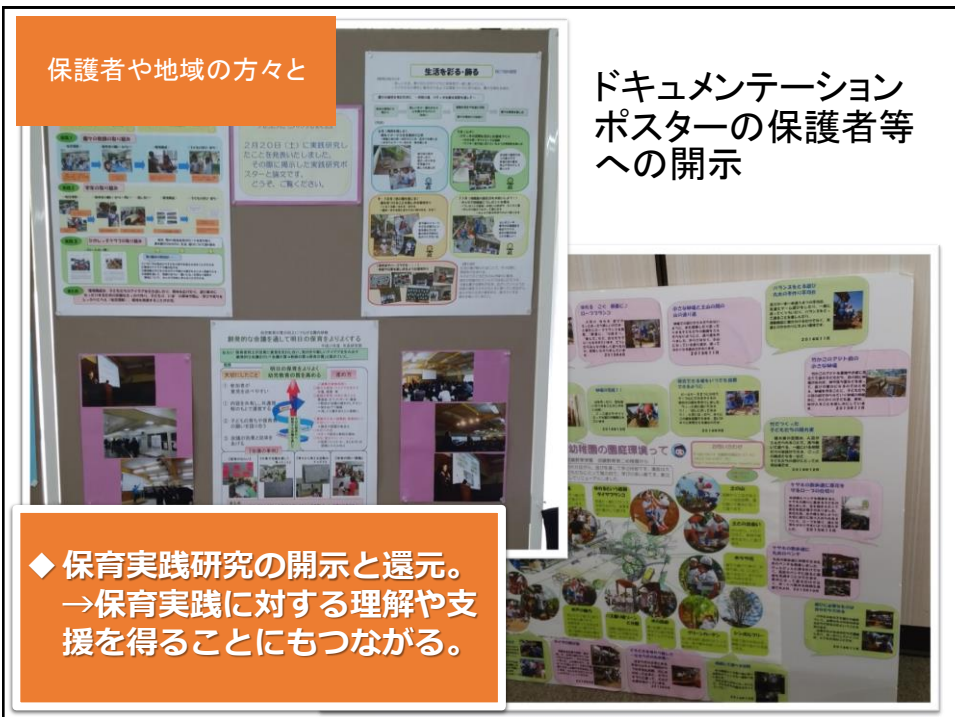
- 少しずつ増えていくんです。何か口コミだったり、よかったよとか。
- あとは写真を
- 掲示したり
- 写真があるとイメージが分かりやすい
- これぐらいいれば、もっといろいろなことができるよねというので
- どんどん増えていって、いまに至るという感じ



保護者や地域の方々と

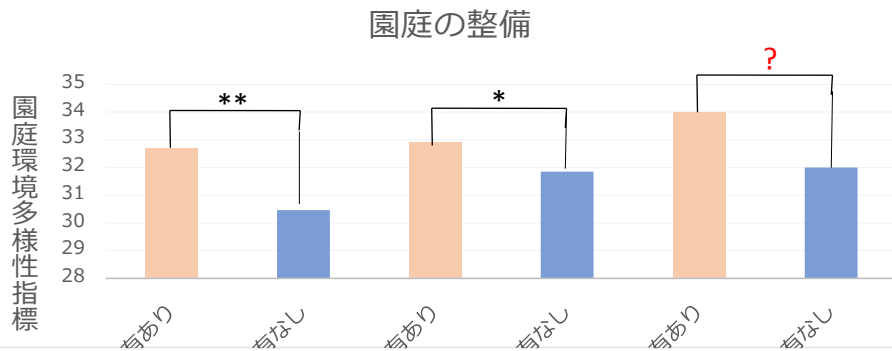
ドキュメンテーション ポスターの保護者等 への開示

- ◆ 保育実践研究の開示と還元。
→保育実践に対する理解や支援を得ることにつながる。



園庭環境の質と情報共有

➤辻谷他(2017)の研究...「園庭の整備」に関して、情報共有がある方が多様な環境が設定された園庭になっている。



◆ 園庭環境の質は教職員が園庭の整備に関する情報を共有できるかにある

子どもの経験をより豊かに
園庭の質向上のためのひと工夫へのいざない



(園庭に関する考え方...それは物理的環境のみでなく、保育のねらい内容、方法を検討することになるというようなこと)

園庭の質向上のための6観点7ステップのツールガイド

